

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2016/06 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★大学に通う意義とは！

何で大学に行きたいの？という教員の問いかけに対して、生徒の皆さんは何と答えるのでしょうか。学問を学びたい、視野を広げたい、とかいろいろと答えてくれると思います。最近では就職に有利だから、という答えも多くなっています。

今回の特集は、ニュースサイトの「ビジネスジャーナル」で取り上げられた立教大学経済学部教授のお話を引用しながら大学に通う意義などを考えていきましょう。

○社会人になる前に身につけたいこと

大学を卒業すると一般的には次のステージは社会人です。ですから、単にある専門分野を学ぶだけではなく、大学の4年間は社会人になる前に身につけるべき『社会人基礎力』を養う期間だと最近では考えられるようになっていきます。現代の大学では、どんな学部に進んでも授業内外で社会人に必要とされるものを学ぶ機会が設けられるようになりました。

○事件や事故の解釈に、学部によって異なる思考が生まれる

Q 確かに職業に就くために必要な能力を身につけることは重要です。しかし、医学部などは別として、大学で学んだ専門分野が職業に直結する人は多くはなく、特に文系では少ない印象があります。日本社会では理系よりも文系が多く、第3次産業を担ういわゆる「サラリーマン」が大部分を構成しているんです。それでも、なぜ各自が専門分野を学ぶのでしょうか？

専門分野を学ぶと、その分野が持つ独特のもの見方が次第にわかってきます。すると、社会現象をそれに沿って考えて、自分なりに解釈する習慣が無自覚でもできてくるのです。たとえば、今年1月に起こった軽井沢でのスキーバス転落事故のニュースを知った時は

- ・医学部→どのような救命措置をすればより多くの命を救えたのか、
- ・法学部→遺族に対する補償や企業の法的責任はどうなるのか、
- ・経営学部→事故を起こした企業とその関連会社が今後どうなっていくのか、

といった観点からこのニュースを受け止めるのではないのでしょうか。このようにひとつの現象に対して、どのような思考を巡らすのかというのは、大学で学んだ専門分野が大きくかかわってきます。

Q だが、専門的知識や技術を学びたいのであれば、専門学校などでも十分のはずだが？

確かにその通りですが、大学では専門分野と同時に、教養も学びます。教養的知識で視野が広がれば、ものを考える際のヒント、アイディアの源泉も広がってくるでしょう。専門と教養の両方を学ぶことで思考方法と発想の選択肢を増やすことができ、社会人として不確実な事象に対応するときの応用力を拡げることができるのではないのでしょうか。

○自分探し型と将来逆算型、両極が混在する現代の学生像

Q とはいっても、やはりそれは真面目に勉学に励むというのが前提の話であって、多くの大学生は残念ながらその姿勢は持ち合わせていないのではなからうか？

そういう学生は確かに今でも多くいると思います。しかし、大学時代に必ずしも勉学にのみ全精力を注ぎ込む必要はありません。大学では高校時代よりも概して拘束時間が少なくなりますから、旅行や趣味、サークルや体育会など、教室での学び以外にも自己の興味で多くの時間を費やすことができます。そうした時間を通じて、あれこれと思考を巡らすことが自己の人生や将来を深く考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。自分探しのために、モラトリアム（社会に出るまでの猶予期間）として大学に通うことも、長い人生の準備期間と考えると十分に意味があるのではないかと思います。

一方で明確に将来をイメージしすぎる若者が多いのも現代の特徴と言えます。若者の気質として「この会社に入りたいから〇〇大学の〇〇学部に進みたい」といった、非常に具体的な将来の理想像を持ち、そこから逆算して物事を考え、興味よりも成果を優先するタイプの人々が以前よりも増えたように感じています。しかし、現実には自然災害なども含めて未来は非常に不確実です。だからこそ、あまり自分の将来の姿を早々に決めつけすぎないで、大学本来の意義である「自分が何を学びたいのか」を中心に考えて、先の分からない未来に対する対応力を磨いてほしいものです。

○今の大学生にはノートの貸し借りさえも難しい？

大学生活の全体から考えれば、授業の代返やノート写しなどを友人に頼むのも必ずしもマイナスばかりではないでしょう。もちろん授業は真面目に聞かないといけません、そういったことを頼める間柄というのは、ある程度時間を共に過ごして親密にならなくてはできませんよね。人間関係の形成も大学時代に身に着けたいスキルのひとつでしょうから、交渉力や他者から信頼される自分作りのためには、これらの行為も必要悪かもしれませんね。もっとも、最近ではノートを借りられる友人がいないために、しぶしぶ授業に出てくる学生もいるようですが……。自分か傷つきたくないために、他者と踏み込んで話をしたがる若者が最近多くなっていると感じています。表面的な人間関係しか作れない若者が増えているのではないのでしょうか。大学時代の友人は卒業後も腹を割って話ができる数少ない仲間だと思います。価値観を共有でき、利害関係を気にせず相談できる相手がいるということは、社会人になると特に貴重だと実感するものです。大学は生涯続く友人を作ることができる数少ない場所でもあります。学生のみなさんには、自由に使える時間の価値を自覚して、友人と共に有意義に過ごしてもらいたいです。

在学時に費やした時間や築いた人間関係が、結果的に将来の財産になると考えられれば少しは気も楽になるかもしれません。「自分に投資できる時間」として大学を捉えることも、昨今の大学生の心得のひとつだといえるのではないのでしょうか。

さて、どうでしたか？私自身が25年前に大学に通っていた時を思い出すと、いちいちうなづく箇所が多く感じられました。大学には「夢」があるんだ！という漠然とした思いがあってもいいのではないのでしょうか。

8月26日（金）に行われる統一学校説明会はまさしくその「夢」にちょっとだけ触れることができる機会です。ではどう触れればいいのか。ただあるがままを受け入れるだけでは何も始まりません。1・2年生はこの統一学校説明会に向けてさまざまな取り組みをしていって下さい。先生から言われている進路学習の一環としてやるべきことをまずは取り組むこと。その上で自分自身で調べていってもいいのではないのでしょうか。「夢」は自分でお迎えをして叶えるもの。ぜひ迎える準備をしていって下さい。

新・心のサプリ 海原純子



「科学者とあたま」考

寺田寅彦の「科学者とあたま」というエッセーの中に、なるほどと思う一節がある。科学者は頭がよくなくてはいけないが、同時に「物分りの悪い呑み込みの悪い田舎者であり朴急仁でなければならぬ」のだという。

何故か。頭のいい人は見通しがきくので、結果がだめだと分かっただけで、前途が困難だと思ってしまう。頭が悪い人は、頭のいい人が考えてはじめてからやめてしまうことをやってみたりする。結局それがダメだとわかるには時間がかかるが、そのプロセスの間には何か別の方法をみつけられるという。

もうひとつ。頭のいい人は他人の尻尾がみえてしまい、批判ばかりする。すると自分が偉くみえてしまい、努力をしなくなり、進歩がとまる。頭のわるい人は、他人の仕事が立派に見えるから努力するし、立派な仕事で自分にもできそうな気がしてやってみたりするのでさうである。

頭のいい人は批評家には適するが行為の人にはなりにくい、と寺田寅彦は述べている。すべての行為には危険が伴い、失敗が伴うからである。失敗を怖が



理学イニスト 北村人

る人は科学者にはなれない。この一節を讀んでいて「ストレスをのり切ること共通している点が多いなあ」と思った。今、「頭のいい人」がとても多い。すぐに物事の結果を考えてしまうのだ。

気分が鬱滞した時、ほんの少し体を動かすと気分が変わる。仕事帰りにちょっと運動したり散歩やストレッチするだけでも変化を感じるものだ。私は気分がすっきりするから、夜11時まで聞いているスポーツクラブに寄って10分ほど泳ぐのが、仕事帰りの習慣だ。「10分しか泳がないなら何も変わらないでしょ」というのは頭のいい人の言葉。やってみないとわからない。

もう何十年も前に、サラ・ウォーンのレコードをきいて「すごい」と思った。自分でもやってみたくて歌い始めた。頭のいい人はそんなことはしないだろう。「そんなことをやったら何になるの」「サラ・ウォーリンになれ

るわけない」「いくらやってももうかるわけない」「そんなことをするくらいなら他のことしたら」といわれしてきた。すごいなあ、と思っただけでやり始める私は寺田寅彦の分類で頭が悪いということだが、結局それがダメだとわかるまでに時間がかかり、更にダメだとわかってからも、まだやっているのだから、騙めつまである。

しかし、その努力のプロセスのなかで得た出会いや学びやつながりは、私の心の宝物になっている。困難さをのり切る方になったのは、結果がどうなるかわからないけれど、やってみただけで、結果がどうなるかわからないことを始めた時、ふと疑問に感じたことの根本に潜むものに目を向ける好奇心だったと思っただけ。

「どうせやっても」「結果がどうなの」と書きてやってみない頭がいい人たちが多すぎる世の中は、ストレスフルである。（日本医大特任教授）

★ナンバーワンよりオンリーワン！「日本で唯一」のある大学をちょっとだけ紹介しましょう。

・日本で唯一の「大学が最後に付かない大学」
日本の大学の名前は〇〇大学のように、最後に必ず大学と付いています。しかし、日本の大学の中で唯一「最後に付かない大学」があります。それが東京にある公立大学「首都大学東京」です。2005年の設立時には話題になりました。

・日本で唯一の「繊維学部のある大学」
長野県にある国立・信州大学には、日本で唯一の繊維学部があります。信州は生糸の一大産地であったことで、1910年（明治43年）には「上田蚕糸専門学校」が設立。これが後の学制改革によって信州大学繊維学部になりました。

・日本で唯一の「歴史学部のある大学」
京都の佛教大学にあります。その名の通り歴史を学ぶ学部ですが、この名称なのは佛教大学だけ。他にも歴史学科を持つ大学は数多くありますが、学部として独立はしていないのです。

・日本で唯一の「知的財産学部のある大学」
大阪工業大学にある学部です。近年非常に重要視されるようになった「知的財産」について、法学を基礎として学び、研究をします。2003年4月に開講しました。特許権や著作権といった部分を学びたい学生にも人気です。

・日本で唯一の「スワヒリ語スピーチコンテストを開催している大学」
東京にある創価大学では、日本で唯一のスワヒリ語によるスピーチコンテストを開催しています。2015年までに25回も開催されており、スピーチ大会の終了後には交流会も行われます。

・日本で唯一の「演劇専門の博物館のある大学」
早稲田大学の構内には「早稲田大学坪内博士記念演劇博物館」という、日本で唯一の演劇専門の博物館があります。関連図書や錦絵、衣装など演劇に関するさまざまなものが収蔵されています。

・日本で唯一の「可動式の受信アンテナを持つ大学」
広島県広島市にある広島工業大学には、日本の大学では唯一の「可動式の受信アンテナ」が設置されています。これは「ランドサット」や「エンビサット」といった人工衛星から発信される情報を受信できるもの。衛星画像地図をより正確に作成するために活用されています。

・日本で唯一の「水族館を持つ大学」
京都大学には、白浜水族館という日本の大学で唯一の博物館法によって指定された「水族館」があります。ここは本来実験施設ですが、一般的な水族館と変わらない施設を有していると認められているのです。施設の正式名称は「京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所水族館」です。